

市民が主役



前列左から久さん、堀内さん、後列左から田中さん、大河内さん、清水さん

清瀬生まれの市民合唱団 ～市民の手による第九～

清瀬第九合唱団 初代団長久紀美雄さん、 現団長堀内知行さん、団員の皆さん

入団のきっかけを「市報を見て応募した」と話す久さん。多数の方が応募し、抽選で数十人落ちるほど人気だったそうです。

他の皆さんに入団のきっかけを伺うと、大河内さんは、「平成22年2月に市民講座で、『三村先生と愛唱歌を歌おう』という講座に参加した時に第九のことを知り興味を持った」と話されます。「仕事をしていた時に職場の合唱団で歌っていた」という田中さんは、「退職後になかなか地域とのつながりが持てず、市報でたまたま募集記事を見て、歌の経験を生かせたらと思って」とのこと。ミュージカルが好きで音楽を習っていたという清水さんは、「参加している友達に声をかけてもらった」そうです。「家族メーンのスケジュールが多く、外出したり自分の趣味を組みこめない状況だったので、自分の時間も欲しくて」と話されます。

実際に参加した後もとても楽しく活動しているようで、田中さんは「楽しい忙しさを充実している」と話し、堀内さんは「正確なリズムができた。そうでないとだらだらしてしまうので」と話します。団について詳しく伺うと、「も

ともと音楽を専門に勉強した方が数人いて、大学のグリークラブ(男声合唱団)のOBの方にも数人参加してもらっている。うまい人と一緒に歌うと自分もうまくなったような気がしますし、皆がそれにつられて良い方向に向かっていく」とのこと。団員の最年少は15歳、次に40代が3〜4人、一番多いのは60、70代で一番上は80代と、年齢層が広い合唱団のようです。

練習の流れとしては、まず、ボイストレーニングやパート別の練習をし、パートの音ができるようにすると全体で合わせて、不具合を調整するそうです。また、自習用として、楽譜と練習用の音取りCD(※)があり、自宅でも独唱が可能とのこと。楽譜が読めなくてもその音を聞きながらやっているとだんだん分かり始めるのでとても効果があるのだそうです。

※楽譜に基づいて重要なパート別にピアノで音を取った正確なCD。ドイツ語の発音練習や音程、リズムの取り方など部分部分で自習ができる。

この団だけの特徴

「他の団体にはない面白い特徴がある」と言う堀内さん。「第九は毎回歌いますが、それ以外にも新しい曲に挑戦し、新曲はラテン語や英語など、すべて外国語であることがこの楽団の特色」なのだそう。大河内さんは、「新しい曲をいろいろな言葉で歌えるので、それが楽しくて長く続けたいという方もいる」と話されます。

今年 は 5 周年

毎年12月に行う清瀬けやきホールでの合唱会は、すぐにチケットがなくなるほど大人気のように



清瀬けやきホールでの合唱会

す。

堀内さんは、「今年は5周年記念ですので、クリスマス特集ということで歌う曲数を昨年よりも増やし、3部構成にしている」と教えてくれました。

「多くの方から『毎年楽しみにしている』と言われたり、合唱会終了後に翌年のチケットの予約をする方もいて、そんな方たちの声も私たちの励みになる」と大河内さんは話されます。

合唱が平均寿命を延ばす!? 合唱によるさまざまな効果

とても元気ではつらつとしている皆さん。普段心がけていることはどのようなことでしょうか。

田中さんは、「健康に気をつけている。健康でないと声も出ないし、声を出すためには体力がないといけません。また、歌うことで健康になるため良い相乗効果がある」とのこと。大河内さんは、「相乗効果で体力を増進できることや声を出す達成感・充実感を味わえるのも良い」と話されます。加えて久さんは、「呼吸作用が中心なので健康に良いのは間違いないと

思う。合唱などで歌を歌っている人は、平均年齢を高めているという話もあるようです」と話されます。

また、「外国では、音楽で職場を改善する活動をやっている人がいる」と話す堀内さん。ある音楽家が職場に合唱を取り入れて、毎日職員全員で合唱を続けたところ職場のチームワークがよくなったという結果が出ているのだそうです。皆さんは、「合唱をすることによって何か人に作用する良い効果が生まれるようです。まさに音楽は世界の共通語」と話し、「清瀬の職場にも合唱団があれば楽しいですね」とほほえみます。

この瞬間がたまらない

とても楽しそうな皆さん。団員をこままでひきつける魅力は何なのでしょう。もともと緊張しない性格と言う清水さんは、「人前で歌えるということや、心のなかからすべてを出せるような感覚が好き。難しい曲もありますし、血管が切れそうなくらい音域も高いですが、すべてを尽くして音を出せた時の爽快感は、言葉では言い表せないほどの感動で、それが何よりも楽しい」と言います。大河内さんは、「プロのソリストと同じステージと一緒に歌えるのも醍醐味」と続けます。また、「新しい曲が歌えるようになった時や譜面を見なくてもメロディーがつかめた時、歌詞を覚えて声も出るようになった時など、成長できたと感じる時はとてもうれしい」と本当に楽しそうです。

団員数の増加を目指して

「今後は団員を増やしたい」と

話す久さん。現在ソプラノとアルトが各20人、テナーとバスが各13人いるそうですが、全体で120人くらい欲しいそうです。

「ベートーベンの第九は音域がとても高くソプラノ担当の方が少ないぶん脱落した」と大河内さん。堀内さんは、「どの団もそうですが女性がアルト、男性はバリトンの人口が多いようで、ソプラノと特にテナーはとも少ないのが問題」とのこと。「学生など若い方にも参加してもらいたいという思いを込めて練習日を土曜日に行っている」と話します。

清瀬初(発)の大イベント

今後の予定を伺うと、清瀬初(発)の一大イベントを企画しているとのこと。「第九を歌っている合唱団がなかったため、ベートーベンは第一〜第八までしか演奏したことがない」という清瀬管弦楽団(平成25年市報1月15日号2面参照)が、第九合唱団が成長してきたことを評価してくださり、平成27年8月23日に、清瀬主体の管弦楽団と清瀬主体の合唱団で合同の演奏会を行うそうです。

皆さんは、「ぜひ清瀬のオーケストラと清瀬の合唱団と一緒に歌いましょう」と話されました。

一緒に歌いませんか♪
一度練習を見に来ると楽しさが分かります。

練習日時・場所 月3回土曜日の午前中(2時間程度)・アミューホール他

※詳しくは、清瀬第九合唱団 ☎491・3534

合唱団の誕生
清瀬第九合唱団は、平成21年に清瀬市主催の市民講座で生まれました。平成22年の清瀬けやきホールのオープン記念事業に合わせて市がイベントを企画し、いろいろな団体に参加を依頼したそうです。その時に、市民講座の参加者が、三村卓也(※)さんを紹介され、三村さんから「清瀬で第九をやってみたらどうか」と言われたとのこと。

当時市内に第九をやっているような合唱団がなかったため、市報で団員の募集を行いました。清瀬けやきホールのオープンを記念事業が終わった後も、「せっかくだから合唱団を続けたい」という声が多く、久さんを初代団長として54人でスタートし、現在66人の団員で活動しています。



「An die Freude(歓喜の歌)」の楽譜。歌詞にルビが振ってあり親しみやすい仕様になっている

※現第九合唱団の指導者。市内在住のプロのテノール歌手で音楽活動をしている